

鯉山学区老人クラブ名言・名文集①

「ヨッシーの遺言」

(参考フレデイの遺言より)

私がまさかぼけることはないと思われるかもしれませんが、先のことは私にもわかりません。万一の時のために家族や私の介護にあたってくださる方へ次のようなことを今からお願いしておきたいと思います。

私が教師だったことやマジシャンだったことをまず忘れてください。私は過去とは別の人間になってしまったのです。

「しっかりして！」と大きな声で怒鳴られてもただ恐ろしいのでおびえるだけです。ですから、私に何か言いたいことがあれば、笑顔でやさしくかたんに話してください。

たぶん私は変なことを言うと思います。たとえば「ここに入れておいたお金がない」と言ったら「じゃあ一緒にさがしましょうね」とさがすふりでいいので私の要求をまず受け入れてください。

ごはんのあとで「ごはん、まだか」と言ったら「おなかが空いたのね」と優しくせんべい1枚くれれば満足です。

それから私は何をやってもすぐ忘れる病気の人だと思ってください。もちろん目の前の人や誰なのかもわかりません。記憶装置が壊れてしまっているからです。

ただ、あなたが私の目をしっかりと見て、優しい声で話しかけてくれたらきっとあなたが大好きになります。ほかの人の言うことを聞かなくてもあなたの言うことなら聞こうとします。笑顔が大好きだからです。

私の頭の中は霧がかかったようにモヤーとしています。だからとても不安なのです。夜は正直、何かが出てきそうでとても怖いのです。そのため、大声で騒ぐことがあるかもしれません。そんな時でもしからなくて、大丈夫だからと優しく肩をぽんぽんとしてください。私の心が寂しいとき、私が大好きだったユーミンの曲を聴かせてください。どんなに知性が破壊されてもそのぶん感性だけは豊かなのですから。私は、こうしたことをごく自然にしてくれる心優しい人に囲まれて余生を過ごしたいと願っています。

上記は高松公民館高齢者教室講師「吉田良治氏」が講演の際、配布された資料のコピーです

表面もご覧ください